

第16回国際日本学シンポジウム「日本学からの対話—認識と言説のはざま—」

セッションⅡ「越境する文学の諸相～ことばを越える・ジャンルを越える～」

2014年7月6日（日）於：お茶の水女子大学

多言語作家の文学

国際日本文化研究センター 郭 南燕

過去二十数年、外国人が日本語で文学を創作することがよく見られるようになってきている。たとえば、リービ英雄、デビッド・ズペティ、アーサー・ビナード、ボヤンヒング、田原、シリル・ネザマフィ、楊逸など。これらの作家にとって日本語は第二、第三、あるいは第四言語だ。必ずしも使い慣れているとは限らない日本語を選んで文学を創作することは、日本人読者に伝えるメッセージがあるからだろうと思う。

本発表は、まず外国人の日本語文学の歴史を概観する。それから近年の作品群にこめられたメッセージを、言語、社会、文化などの側面から検討する。さらに多言語作家たちの日本語文学は、今日の日本文化にどのように寄与しているかを考える。